



司会 久野医院を開院されたのは、昭和27年ですね。

相談役 医大を卒業して国立病院(現京都医療センター)へ研修に行ってまして、当時の部長先生に開業を相談してみたら、いいんじゃないかというお返事をいただき、結構早くから開業させていただいたんです。最初は住まいと同じ頃成町で開業しました。

理事長 開院した当時、夜8時から朝8時までが診療時間だったと聞いています。

相談役 夜間開業ということで、昼間は国立病院で勤めて、夜間に自宅兼診療所で患者さんを診ていました。診療時間を「午後8時から午前8時まで」と書いていました、「午前8時から午後8時まで」の間違いじゃないかってよく言われましたよ。(笑) だけど患者さんは多かったです。実際は夜の9時ごろには終わりましたけど、夜中いつでも具合悪かったら来てくださいと言っていました。今から思いますとそれがみなさんに非常に頼っていました。

司会 多忙を極められているお父様はどのように映りましたか。

理事長 父親らしいということはあまりな

かったかもしれませんね。ですが、家と診療所が一緒でしたので、白衣着て診療している姿をそばで見てましたから、「医者ってこんな忙しいんだなあ。」というのが分かったといいましょうか。医者のあり方を背中で見せてくれた気がします。その影響力は大きかったと思います。私自身今でも、救急のスタッフには、当直の先生が対応できない時や救急をお断りになるときは、24時間いつでも私に電話しなさいと言っています。私が診られるときは病院に出ます。夜中多いときは2回ぐらい電話が掛かってきますし、月に1、2回は顔も洗わずにそのまま病院へ出て行くことがあります。寝るときは、いつ何時でも病院に駆けつけられるようにズボンとシャツはそばに置いて寝ています。

司会 開業当時相談役は、昼も夜もいわばフル稼働で、健康を害されたりしませんでしたか。

相談役 地域の皆様には頼っていただけたのですが、無理がたたって2年ほど病気で寝込みました。病気のあいだは、診療所を知り合いの先生方に助けていただいて、自分が療養中も医院がなんとかやっていましたので、このことが、病院を始めるきっかけ、ヒント

になったのです。

それまでは診療は自分ひとりでやらなアカンと思ってましたけれど、でもそうじゃないということがはっきりしましたね。医者の数が増えれば、非常に広範囲に診療もできるし、自分が診療できないときは他の先生の協力をお願いできるということが分かったんです。より広く深く、地域の方々に対して貢献ができる。これは、やっぱり病院にすべきだと思いました。そして、それからは自分の体を過信しないようにして、夕方5時から夜の9時ごろまでに診療時間を変更しました。

昭和33年に有床診療所を始め、昭和40年には40床の久野病院を開設しました。当初は、内科、外科、皮膚科などの診療科でした。そのうちに、往診にも行っていますと急病の方が多いので、救急病院もやろうということになりました。

理事長 昭和50~60年はモータリゼーション輝かしいころでしたので、交通外傷が多かったです。会長は元々内科医ですが、手術の助手に入ったりしているうちに、何でもできるようになったというのは聞いています。外科の手術、整形の手術も全部やっていまし

た。救急は忙しかったですし、たくさんの手術と一緒にきました。

司会 それぞれの先生方の色々な知識、技術が深められて、患者側にとっても大きな安心ですね。

相談役 外科とか内科とか関係なく、とりあえず久野病院に行って診てもらおうという意識をこの地域の方に持っていたいと思います。そこで診療してきました。ここでできないことは対応できる他の病院を紹介しますし、そういうことが患者さんの安心につながると思います。

理事長 今でこそ総合診療医の専門医制度ができていますが、当院では25年くらい前から相談役は総合診療科の看板を上げていました。これらの医師の役割は、地域の高齢化に対応する医療や介護ニーズに応えるために、患者様やご家族の話をよく聞き、広い知識をもち総合的に患者様を診る(看る)ということが、一番に求められることだと思っています。

司会 次回は、高齢化が進む時代に、京都久野病院が目指す医療についてお伺いします。



相談役

久野 敏人

TOSHINDO KUNO

理事長／院長

久野 成人

NARUTO KUNO

病棟リニューアルとこれからの京都久野病院

病棟リニューアルにあたり、医療法人社団育生会相談役久野敏人先生と理事長久野成人先生に2回に分けてお話を伺います。今回は開院当時のお話です。

ご挨拶



地域密着型医療を目指して

当院は、先代がこの地で医療法人として設立してから40年余りになりますが、この間に、医療制度は大きく様変わりしてまいりました。そのダイナミックに変化する医療制度への対応と地域医療の充実を図るために、昨年より新病院棟の建設が始まりました。新病院棟開設にご協力いただきました地域の皆様や関係者各位には心よりお礼申し上げます。

副院長
久野 雅人

また、新病院棟開設に伴い電子カルテの導入となります。しばらくの間、皆様には不慣れなことからご迷惑をおかけするようになってきました。

とは存じますが、検査データー等がリアルタイムで、患者様と医師が共有できる大きなメリットがあります。今後も、地域の皆様のお役にたてるよう努力してまいりますので、温かいご支援をお願い申し上げます。



新病院棟開設にあたって

新病院棟の開設にあたりまして、皆様に多大なるご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。新病院棟の完成とともに、地域の皆様にはより快適な医療環境を提供させていただきます。

医療は確実に進歩してきました。外科手術においても腹腔鏡による低侵襲なものが増えてきており、さらに、消化器内視鏡検診での胃癌や大腸癌の早期発見による内視鏡手術での根治例が増えております。痔核の治療も局所注射による低侵襲な方法が用いられる

外科部長
内藤 元康

ようになってきました。
これらの新しい医療の実施を行うとともに、疾患によっては、より専門的な中核病院への窓口として、これからも地域医療に励んでまいりますので、よろしくお願いします。



新病棟完成に向けて

新病院棟完成後の整形外科の体制と治療に関してご紹介いたします。

常勤の整形外科医師は久野成人、中路教義、梶川佳照及び岩井宏次の4名体制であり、整形外来・入院・手術を担当しています。整形外科は骨・関節・筋肉等の運動器疾患全般を扱います。骨折をはじめとする外傷、膝を中心とした各関節疾患、腰痛などの脊椎疾患に力を入れております。

整形外科部長
岩井 宏次

検査に関しては、通常のレントゲン以外に、高機能CT、MRIを設置しています。手術室はクリーンルーム2室があり、整形外科領域のほとんどの手術に対応するようにしています。回復期のリハビリテーション病棟も設置しており、手術後や腰椎骨折後等のリハビリが安心して受けられる体制としています。新病院棟の完成とともに、整形外科の治療を一段とレベルアップしてまいります。



看護部長
日置 利花

していただける環境をつくりたいと考えております。これからもより一層地域の皆様に信頼され、満足いただける病院になれるよう、日々邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ぬくもりを感じる新しい環境で

このたび、建物も病院名も一新され、新病院棟のオープンを迎えることができました。ぬくもりを感じるこの新しい環境で看護を提供できることは、うれしい反面、身の引き締まる思いです。

私たちの看護部は、「和の心」をもとに患者様中心の看護・介護を提供することを理念としています。看護師一人ひとりが温かく、患者様やご家族の思いに寄り添い、支える看護・介護を目指しております。

京都久野病院を利用していただく方々に、より安心して治療・療養及び相談を